

目指す学校像	みんなでつくる わくわくがあふれる野田小学校 ～ すべての子どもが、自ら、自分らしく学び、育つ学校 ～
--------	---

重点目標	1 基礎的・基本的事項の定着と児童が自ら学ぶ授業への改善 2 安心・安全な学校づくりに自ら取り組む児童の育成と教育相談体制の充実 3 学校・家庭・地域が連携して取り組むスローガンの策定と取組の充実化 4 業務改善の推進と教職員の資質・能力の向上を図る研修の充実	※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。
------	---	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
年 度 目 標					年 度 評 価		実施日令和7年2月13日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○令和5年度の全国学力学習状況調査や市の学習状況調査の結果について、若干の伸びは見られたが、国語科、算数科ともに全国平均、市平均と比べ、課題が見られた。 ○「自分で計画を立てて、勉強をしていますか」の質問に肯定的に回答した児童は、89.3%、「国語の勉強は好きですか」の肯定的回答は73.8%、「算数の勉強は好きですか」の肯定的回答は78.7%であった。昨年度と比べ、改善はしているが、「教わる」授業形態から児童が「自ら学ぶ」授業への改善を引き続き継続する必要がある。 (課題) ○基礎的・基本的事項の定着状況や主体的に学習に取り組む態度等の個人差が大きく、学習習慣の確立、家庭との連携が重要になっている。	・基礎的・基本的事項の定着 ・児童が「自ら学ぶ」授業への改善	・月1回、詩の暗唱チャレンジ、100問計算、スピーチ発表日を設け、活動に取り組む。 ・月に1度、今月の取組を振り返り、改善を図る。 ・スタディサプリ、ドリルパーク等を活用した個別最適化した学習モデルの作成を1学期中に行う。	・月1編の詩暗唱を80%の児童が達成できたか。 ・月1回100問計算を実施し、90%の児童が自己ベストを更新できたか。 ・スピーチについて自分の想いや考えを聴き手に分かりやすく話すことができる児童が80%以上となったか。 ・市学習状況調査5年度比2PT上昇。	・12月末現在、詩の暗唱のチャレンジについて、一人当たり平均9編となり、達成率は81.4%となった。 ・100問計算については、月初から月末にかけての解答数や、計算速度が向上した。自己ベスト更新の達成率は、98.0%となった。 ・スピーチについて、相手意識をもった話し方や聞き方について、80%以上の児童が達成できた。回答した。 ・個別最適化に向けた学習モデルについて、授業の中に積極的にICTを活用した活動を取り入れ、児童が主体的に学びに生かす授業づくりの定着につなげられている。 ・「教える授業」から「主体的に学ぶ授業」へと授業づくりの意識改革の推進も進んでいる。	A	・詩の暗唱チャレンジについては、言葉の暗記にとどまらず、内容の意味を読み取り、情景をイメージしながら言葉の美しさやリズムなどの言語感覚をもち、表現できるような活動にできるようしていく。 ・100問計算やスピーチについては、基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指すとともに、成果が達成感として次の目標につながるようさらなる改善を進めていく。 ・授業におけるICTの活用については、児童が思考を深めるためのツールとして活用し、課題について自己解決につなげられる学習環境を創出していく。	・野田小学校の基礎学力向上に向けた詩の暗唱チャレンジや、100問計算の取組について、児童の達成できた時の満足感や更なる意欲付けにつながっていると評価できる。基礎学力の向上には学びが不可欠なので、今後も継続して取り組んでほしい。 ・学習形態の工夫については、児童の発達段階に応じて取り組んでいることはよいと思う。また、ICT機器を活用し、学びの質を向上させていることについてもよい。 ・農業体験については、野田小学校の特徴として今後も大切にしていきたい。
2	(現状) ○さいたま市学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合が最も低い学年は90.4%、平均は91.3%であった。楽しいと回答できない児童がどの学年にも2名は在籍している。 ○学校評価において、「学校では悩みやトラブルなどに適切に対応している」の質問項目に肯定的な回答をした児童が86.9%、保護者は93.2%であった。 (課題) ○児童一人ひとりの状況を的確に把握し、組織的に支援・相談していく体制や仕組み作りを充実するとともに、子どもたちが問題について自分事として捉え、解決に向け自ら行動する力を育てることが課題である。	・安心・安全な学校生活の実現に取り組む児童の育成 ・教育相談体制の充実	・今年度もリーダー宣言制度を実施し、児童自身が主体的に課題の解決に取り組めるようにする。 ・教育相談室「野田っ子窓口」を運用し、児童が休み時間等に相談できる環境の充実を図る。 ・情報端末を活用して、児童の記録を蓄積し、状況を継続的に把握できるようにする	・リーダー宣言をし、主体的に課題の解決に取り組む児童50名以上。 ・学校自己評価に係る児童アンケート「学校では悩みやトラブルなどに適切に対応している」の質問に肯定的な回答をした児童の割合が前年度以上となったか。	・野田小学校をさらによい学校にしようと、児童一人ひとりが自分ができることを考え、当事者意識をもって日々の学習や体験活動の中で実践し、振り返り、さらによりよいものにしていくという取組を推進してきた。 ・各委員会活動を通して、高学年児童が中心となり、「あいさつ運動」や「美化活動」「野田っ子体操」など、学校生活の充実や工夫改善など、多くの取組が生まれ、展開されるようになった。 ・「リーダー宣言」に参加した児童は46名であった。	B	・毎月の生活目標の設定では、児童が主体となり、自分事として考え決めたことについて、朝会での紹介や実践が定着してきた。さらに活動をよりよいものにしていくために、各委員会活動についても、全校児童への啓発、経過の確認や見届け、振り返りなど、取組みへの意識付けや行動につなげていけるような工夫を児童が考えていけるようにしていく。	・通学班の対応については、関係各所と情報共有や適宜適切な対応を要請するなど、今後も児童の安心安全に努めてほしい。 ・児童同士のトラブルに際し、児童が安心して相談できる体制や、大人がしっかりと向かい合い丁寧に対応する環境の構築が大切。現在のよい状況を今後も継続してほしい。 ・互いの想いや考えを認め、尊重し合い、トラブルが起きた際にも十分な話し合いのもと解決できる力の育成を引き続き指導・支援してほしい。
3	(現状) ○令和4年より、学校運営協議会において目指す児童の姿について策定した学校の教育目標「自ら(主体性)、ともに(尊重・協働)挑戦する(創造・貢献)」について、保護者や地域と共有しその具現化に向けて取り組んでいる。今年度はさらなる充実を図っていく。 (課題) ○今年度は学校運営協議会で共有している目指す児童の姿を、家庭、地域、地元企業等と共有するため令和6年度版の重点目標をスローガンとして策定し、広めていく。スローガンをもとに、各家庭等で取組めることをPTA等で話し合ってもらおう。	・学校の教育目標の具現化に向け、学校、地域、保護者が連携して取り組むスローガンの策定 ・学校の教育目標の具現化に向けた家庭・地域での取組の実施	・学校の教育目標を具現化するため、「あいさつの充実」を土台とし、地域や保護者と連携して取り組むための重点目標をスローガンとして策定する。 ・児童会の代表が学校運営協議会に参加し、野田小学校の課題と解決に向けた取組を発表する。 ・各家庭で取組むことについてPTAで協議してもらおう。 ・野田小学校の課題を解決するための取組や協力してほしいことなどをポスターにして呼びかけるなど、児童から保護者地域への働きかけを実施する。	・学校の教育目標を具現化するため地域や保護者と連携して取り組む重点目標をスローガンとして策定できたか。 ・児童代表が学校運営協議会に参加し、野田小学校の課題と解決に向けた取組を発表することができたか。 ・各家庭で取組むことをPTAで協議してもらおうことができたか。 ・野田小学校の課題を解決するための取組や協力してほしいことなどを、児童から保護者、地域への働きかけを実施することができたか。	・重点目標について、「あいさつの充実」を土台とし、「さ・め・だ であいさつができる子」の育成を、各委員の立場で実践に取り組むことができた。 ・児童会児童を中心とした児童が学校運営協議会に参加し、自分たちの考えを伝えたり、委員より意見をもらったりするなど、相互に話し合う機会をもつことで、学校・家庭・地域が連携し、できることから実践する取組を進めることができた。 ・PTAと連携し、「あいさつ」についての取組を共有し、協働する体制を築いてきた。 ・地域や地域への働きかけについては、校内でのあいさつ運動の実践や、校門前での活動等について学校からの通信や掲示を通して知らせることができた。 ・野田駐在所、浦和東警察署と協働し、地域の交通安全啓発活動を行った際に、児童会児童を中心に地域へのあいさつ運動を行った。	B	・学校運営協議会で設定された重点目標について、家庭や地域にとっても重点目標となり、第三者視点ではなく、当事者として、ともに目標の具現化を目指していけるよう仕組みづくりを行っていく。 ・本校の重点目標「あいさつの充実」については、学校行事や各種学校からの広報、便り等を活用することで、啓発を図ることができた。今後はさらに保護者にも当事者意識をもって取組に参画してもらえるようPTAとの協働を深めていく。	・「あいさつ」を重点に取り組んできた成果が随所に出てきている。しかし、できる児童とできていない児童の差が大きいと感じるのも事実。次年度に向け、更なる手立てが必要ではないか。 ・教職員の共通理解や行動はどのくらいできているのか、今一度再確認し、今後の指導に生かしてほしい。 ・保護者の意識を高めることも必要。家庭の協力を高める工夫を検討してほしい。
4	(現状) ○学校課題研修等を通して、子どもたち一人ひとりが生き生きと学ぶための手立てについて実践と共有が図られてきた。 ○小規模校であるため、教職員一人ひとりの業務に係る負担が大きい。 (課題) ○教職員一人ひとりの業務量の削減と誰もが学び続けることができる職場環境づくり ○子どもたち一人ひとりが自ら生き生きと学ぶ授業づくり	・業務改善の推進と同僚性の向上 ・教職員の資質能力の向上に向けた研修の充実	・野田小グッジョブ推進プロジェクト(業務改善推進プロジェクト)を立ち上げ、業務改善について教職員自身が当事者として考え、実行できる仕組みを2学期までに作る。 ・「キャリア navi」と研修受講講座を活用した対話に基づく受講奨励を推進し、学びを共有する場と仕組みを創る。 ・学校の教育目標を具現化する教師像を、教職員とともに達成率を示す。	・教職員からの提案5件以上。 ・全教職員が、自らの課題を解決する研修を受講し、学んだことをアウトプットし、共有する。 ・目指す教師像の達成率50%以上	・野田小グッジョブプロジェクトについて、教職員からの業務改善に関わる提案件数は、3.8件/人となった。 ・教職員が受講した研修については、全員が2つ以上の研修に参加し、それぞれの履修内容について校内研修や職員間の情報共有の機会の中で生かすことができた。 ・目指す教師像について、「達成した」と回答した教職員は66%となり、野田小学校の学校教育目標の具現化に向け、自分事として捉え、教育活動に取り組むことができた。	B	・年度初めに教職員による学校教育目標の具現化に向けた具体的な取組の方向性を話し合い、共有化する取組については、教職員自身が学校教育を推進していくにあたり当事者意識をもって教育活動を実践していくうえで大変有効であった。引き続き、この取組は継続していきたい。 ・教職員が研修等で学んだことを共有し、授業づくりなど、教育活動に生かしていくことは概ね達成はできたが、より組織的な活用に向け、仕組みを整えたい。 ・働き方改革の推進に向け、考えを持ち寄り、改革の推進に向け、できることから取り組んでいく体制づくりができつつあるが、学校行事等、家庭や地域との思いや願いのずれ違いなどが起きることがあるため、家庭や地域に係る可能性がある内容については丁寧に理解を得ていく必要がある。	・教職への魅力が低下し、教職を目指す若者が減少している現状をよく聞き、今後の教育力の低下が懸念される。 ・教職の魅力を高めるために、まずは現職の教職員が生き生きと魅力的に働くことが大切だと考える。現在推進している取り組みはよい取り組みと考えるので、今後も研究し、教職の魅力向上につなげてほしい。